

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03640

研究課題名（和文）近代中国における経済学の受容と日本知識人

研究課題名（英文）History of Economic Thought in Modern China: Focus on the relationship with Japanese Intellectuals

研究代表者

武藤 秀太郎（MUTO, SHUTARO）

新潟大学・人文社会科学系・准教授

研究者番号：10612913

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果として、2020年2月に慶應義塾大学出版会より学術書『大正デモクラットの精神史 東アジアにおける「知識人」の誕生』を刊行した。この著書の中で、本研究の考察対象である福田徳三、河上肇、李大釗、陳啓修を、第2章「福田徳三と中国知識人」と第3章「河上肇と中国知識人」で具体的に論じている。

また、2019年11月に東洋文庫でおこなわれた五四運動100年記念シンポジウムで、「五四運動と日本の黎明会」と題し、上記の人物を中心とした日中両国知識人の思想的交流について報告をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の大正デモクラシー運動と中国の五四運動は、どちらも20世紀初頭に起きた歴史的に重要な出来事であり、これまで日中両国で多くの研究が積みかさねられている。その一方で、両運動の結びつきについては、あまり注意が払われてこなかった。

これに対し、本研究では、両運動の担い手であった日中両国の知識人たちが、密接な交流を交わしていた実態を明らかにした。本研究は、従来の一国的な枠組みを超えた新たなグローバル・インテレクチュアル・ヒストリーを切り開くものである。

研究成果の概要（英文）：I published the academic book titled 'The intellectual history of Taisho democrat: the birth of "intellectual" in East Asia (Taisho democrat no seishinshi)' in February 2020. This book focuses on the ideological exchange between Japan and China.

研究分野：社会思想史

キーワード：福田徳三 河上肇 李大釗 陳啓修 大正デモクラシー 五四運動

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者は、本研究を開始する以前、中国のマルクス経済学を中心とした西洋経済思想の受容過程について研究をすすめてきた。その過程で明らかになってきたのが、福田徳三(1874-1930)や河上肇(1879-1946)といった日本の経済学者らが中国に及ぼした影響の大きさであった。

(2) 福田徳三や河上肇が中国に与えた思想的影響については、本研究開始前にも日中両国でそれぞれ先駆的な研究が存在した。ただ、総じていえば、書誌学的なものが多く、具体的な思想交流の実態については未解明のままであった。

#### 2. 研究の目的

本研究は、近代中国における経済学の受容プロセスを、その主要なルートの1つであった日本に焦点をあて、いかなる思想の継受・変転がなされたかについて明らかにすることを目的とした。考察対象とする時期は、おもに20世紀の初頭から20年代である。具体的な課題は以下の2点である。

(1) 福田徳三の経済学説、時事評論が、中国でどのように受けとめられたのか。また、中国知識人との交流を通じ、福田が自らの考えをどのように変化させていったのか。

(2) キリスト教の人道主義を介し、マルクス主義へと転身していった河上肇の経済学説が、その翻訳を担った李大釗や陳啓修、李達らにどう解釈されたのか。

本研究では、この2点を具体的に考察した。

#### 3. 研究の方法

(1) まず本研究の考察対象である福田徳三、河上肇らの全集・著作集をはじめとした資料を国内で収集・整理をおこなった。その上で、これらの資料を読み進め、彼らの全体像を把握していった。

(2) 李大釗や陳啓修、李達ら中国知識人について、おもに中国で彼らの関連文献に関する資料調査をおこなった。また、現地の研究者とコンタクトをとり、最新の研究動向をふまえつつ、考察・分析をすすめていった。

#### 4. 研究成果

(1) 研究課題である近代日本における経済学の受容と日本知識人について、2017年6月10日におこなわれた日本経済思想史学会第28回大会の基調講演で、報告をおこなった。その具体的な内容は、福田徳三・河上肇と関係の深かった堀江帰一と吉野作造と、中国知識人との関わりを論じたものである。

(2) 2017年9月16日に中国の山東師範大学でおこなわれた国際シンポジウム「第五屆日本学高端論壇」にて、日本と中国の商業観について報告をおこなった。また同年11月24日に台湾の高雄大学でおこなわれた国際シンポジウム「第五屆東亜語文 社会国際研討会」にて、日中両国の商業教育について比較検討をおこなった。

(3) 本研究の考察対象である福田徳三について、2018年6月に東京大学でおこなわれた経済学史学会第82回大会で、福田徳三研究会のメンバーとセッションを組み、「福田徳三と黎明会」と題して報告をおこなった。福田徳三研究会では現在、新しい『福田徳三著作集』(信山社)を編纂・刊行中である。研究代表者は福田の黎明会における活動が収められた『福田徳三著作集』第15巻と第16巻の編集・解説を担当した。本報告は、その過程でえられた新たな知見にもとづくものである。

(4) 本研究対象と関係の深い朝河貫一について、2018年7月に早稲田大学の大隈講堂で開かれた「没後70年記念シンポジウム 朝河貫一 人文学の形成とその遺産」で報告をおこなった。イエール大学初の日本人教師となった朝河のもとには、同じアジア人として多くの中国人留学生が集った。そのうちの一人に、『新人口論』で知られる経済学者の馬寅初がいる。本報告では、これまでまったく触れられてこなかった朝河と馬寅初の交流について、イエール大学や福島県立図書館に所蔵されている資料をもとに明らかにした。

(5) 2019年2月に、本研究の考察対象である李大釗らの思想・行動を論じた著作『「抗日」日本の起源 五四運動と日本』(筑摩書房)を刊行した。これは日本の大正デモクラシーと中国の五四新文化運動の間にみられた思想的なつながりを考察・分析したものである。

(6) 2020年2月に2020年2月に著作『大正デモクラットの精神史 東アジアにおける「知識

人」の誕生』(慶應義塾大学出版会)を刊行した。この著書の中で、本研究の考察対象である福田徳三、河上肇、李大釗、陳啓修の思想的交流の実態を具体的に明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 武藤秀太郎	4. 巻 15
2. 論文標題 河上肇と中国知識人	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 吉野作造研究	6. 最初と最後の頁 12～26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 武藤秀太郎
2. 発表標題 日本で最初の国際的歴史学者「朝河貫一」 「胡適」との対比を中心に
3. 学会等名 けいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤秀太郎
2. 発表標題 朝河貫一と中国歴史学
3. 学会等名 朝河貫一学術協会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤秀太郎
2. 発表標題 五四運動と日本の黎明会 日中両国の「知識人」をめぐって
3. 学会等名 五四運動百年記念シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤秀太郎
2. 発表標題 山田盛太郎『日本資本主義分析』の理論と射程
3. 学会等名 専修大学社会科学研究所主催公開研究会「日本資本主義論争の時代とその遺産」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武藤秀太郎
2. 発表標題 福田徳三と黎明会
3. 学会等名 経済学史学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤秀太郎
2. 発表標題 朝河貫一と近代中国
3. 学会等名 没後70年記念シンポジウム 朝河貫一 人文学の形成とその遺産
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤秀太郎
2. 発表標題 堀江帰一と吉野作造 中国との関わりを中心に
3. 学会等名 日本経済思想史学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武藤秀太郎
2. 発表標題 論中日両国 “商戦” 論的淵源
3. 学会等名 第五屆日本学高端論壇（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武藤秀太郎
2. 発表標題 論近代中日両国商業教育的理念
3. 学会等名 第五屆東亜語文社会国際研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武藤秀太郎
2. 発表標題 朝河貫一と中国歴史学 服部宇之吉との関連を中心に
3. 学会等名 私立大学戦略的研究基盤支援事業ワークショップ「朝河貫一の東アジア研究」（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 武藤秀太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾出版会	5. 総ページ数 352
3. 書名 大正デモクラットの精神史 東アジアにおける「知識人」の誕生	

1. 著者名 海老澤衷、近藤成一、甚野尚志、武藤秀太郎、他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 284
3. 書名 朝河貫一と人文学の形成	

1. 著者名 武藤秀太郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 289
3. 書名 「抗日」中国の起源 五四運動と日本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----